

災害対処能力向上へむけて



【滋賀県総合防災訓練】



【大津市総合防災訓練】

混成団は、平成30年9月2日(日)、17日(祝・月)～滋賀県、大津市がそれぞれ主催する総合防災訓練に参加した。防災訓練は毎年9月1日「防災の日」に併せ、滋賀県下各地方自治体で開催されている。参加した第109教育大隊は、各関係機関との連携要領を演練し、災害対処能力の向上を図った。また、10月13日(土)から14日(日)までの間、中部方面隊が担任する南海レスキュー30が開催された方面区内の各部隊で様々な訓練が実施された。混成団においても、隷下で常備自衛官と即応自衛官で編成される第49普通科連隊が参加した。本訓練に参加した第49普通科連隊の即応自衛官は、当初、航空自衛隊岐阜基地において大型輸送機に物資を積載、その後、南紀白浜空港へ物資を空輸し、到着後は、アメリカ海兵隊の大型輸送ヘリコプター等への物資積み替え作業等を演練した。即応自衛官は、アメリカ海兵隊との迅速な連携を図るとともに、災害対処能力の向上を図った。



【30南海レスキュー訓練】



MACB QRコード

編集・発刊

中部方面混成団 本部広報室

TEL077-523-0034

新副団長
堀 次郎 一等陸佐 着任

平成30年8月1日 新たに中部方面混成団副団長として堀次郎1等陸佐が着任されました。

- 出身地 大阪府
- 生年月日 昭和四十一年八月十七日
- 職種 特科
- 経歴 特科

- 第十二特科連隊 (宇都宮)
- 同中隊長 (同)
- 第九師団司令部 (青森)
- 陸上幕僚監部調査部 (市ヶ谷)
- 同運用支援・情報部 (同)
- 第一二〇特科大隊長 (上富良野)
- 東北方面総監部防衛部防衛課 (仙台)
- 第五旅団司令部第三部長 (帯広)
- 陸上自衛隊幹部学校教官 (目黒)
- 中部方面総監部装備部後方運用課長 (伊丹)
- 陸上自衛隊幹部学校教育部教務課長 (目黒)



【団長より堀1佐紹介】

副団長
齊藤 肇夫 一等陸佐 離任



齊藤副団長は37年の自衛隊生活を全うされ平成30年8月1日付けをもって陸将補に特別昇任され、定年退官されました。本当におつかれさまでした。



家族の想い

第1中隊

宮本3曹夫人

宮本梢さん



我が家は、平成三十年三月に入籍したいわゆる新婚ホヤホヤです。主人は熊本出身で京都の福知山駐屯地に勤務後、今年三月に普通寺駐屯地へ異動となりました。私は関西出身で他の地方で暮らしたことがありません。主人から普通寺駐屯地へ異動の話聞いた時は、いよいよ私も関西を出る時だというワクワクもありましたが、家族や友人と離れることが寂しく感じ、演習などで家を留守にすることも多い主人を考えると私は知らない土地でしつかり暮らしていきけるか不安がありました。それから多少不安はありましたが、今後の生活について二人で話し合い入籍し、今年の年末の同居を目指し現在それぞれ香川県と兵庫県で暮らしています。

そんな中、西日本豪雨があり主人から災害派遣に行ってくると連絡がありました。それから私は土砂崩れに巻き込まれていないか、ケガはしていないか、体調を崩していないか心配しながら毎日ニュースを見るこしかできませんでした。しかしニュースを見てみると警察官、消防隊員、そして自衛官の方々の救助活動が毎日流れ、とても頼もしく、心強く感じ、知らない土地で暮らすことに不安に感じていたことがとても小さく思えてしまいました。

昔のCMのセリフで亭主元気で留守がいいという奥の深そうな言葉もあり、主人が留守にしている間も主人が安心して仕事を帰って帰ってこれるように楽しい家庭を築きたいと思えます。

そして、たとえ今後自身が被災したとしても主人は別の被災者を助けなくてはいけないと思うと自分がしつかりしなくてはと気が引き締まるようでした。過酷な現場で働く主人を心配する気持ちも大切ですが、心配はほどほどに主人を応援し支えていきたいと思えます。一緒に暮らし始め、仕事で疲れて帰って来た時には主人の好きな焼肉を焼いて帰りを待つことにしようと思えます。

よっ男前



重迫撃砲中隊 一曹 藤村 幸二郎

平成三十年四月八日〜六月十三日までの間、連隊が勤務多忙の1四期に陸曹上級課程に入校させていただきました。久しぶりの教育入校ということもあり、新鮮な気持ちで入校を楽しみにしていたのですが、着隊してみると初曹並みにいや初曹よりもゴリゴリな感じでドン引きしました。しかしながら、いくつになってもどの階級でも初心を忘れず謙虚な気持ちで事に臨む大切さを再確認しました。

上曹教育では、自分の任務・地位・役割をはじめ自分が何をしなければいけないか、その為に何を考えなければいけないかを学び、また同期の方々の教育に対するひたむきな姿・学ぶことに貪欲な姿勢・何事にも全力で取り組む姿を見て、今の自分や自分がこの先どうあるべきかを考えさせられる二カ月間となりました。

これから謙虚な気持ちと向上心を忘れず、部隊で活躍することが教育に携わってくれた方々や送り出してくれた部隊への恩返しだと思おうので日々精進していきたいと思えます。

最後に、忙しく時間に追われる教育でしたが休日とは同期と駆け足で比叡山に登り、京都へ降りて大文字山から京都市街を一望し温泉や、夜はビアガーデンで国防について語り合ったりと充実した時間を過ごすことができました。リフレッシュにお薦めなのでぜひどうぞ！

思い出フォトグラフ



登山からのビール最高!

新第四十七普通科連隊長 佐藤篤一等陸佐 着任

平成30年8月1日 新たに第四十七普通科連隊長として佐藤篤一等陸佐が着任されました。

- 出身地 京都府木津川市
- 生年月日 昭和四十四年三月六日
- 職種 普通科
- 経歴

- 第十八普通科連隊 (真駒内)
- 第一空挺団普通科群 (習志野)
- 空挺教育隊 (同)
- 第一空挺団普通科群 (同)
- 幹部候補生学校 (目黒)
- 空幕総隊司令部 (横田)

- 第一空挺団普通科中隊長 (習志野)
- 陸幕連(運支) (市ヶ谷)
- 第十一旅団第二部長 (真駒内)
- 富士学校普通科部 (富士)
- 西部方面総監部情報部 (健軍)
- 部隊訓練評価隊 (北富士)
- 部隊訓練評価隊副隊長 (同)

- 現職



【団長より佐藤1佐紹介】

第四十七普通科連隊長 高山博光一等陸佐 離任



高山一佐は、二年間第四十七普通科連隊長として勤務され、その職務を全うされました。離任後は、第四師団司令部付(福岡)として転出されています。



第7次即応予備自衛官招集訓練の一環として 中隊等訓練検閲・連隊野営訓練を実施

我ら49連隊



編成完結式・隊容検査

統裁官（連隊長）

受閲中隊長（嶋田 3佐）

受閲小隊長（藤波 2尉）

常即一休となつて任務完遂

連隊（連隊長 前野 1佐）は、第七次即応予備自衛官招集訓練の一環として、九月十三日から十七日までの間、長池演習場において第五中隊及び通信小隊に対する中隊等訓練検閲を、九月二十一日から二十五日までの間、あいは野演習場において第二次連隊野営訓練をそれぞれ実施した。

中隊等訓練検閲は、第五中隊長（二等陸佐 嶋田和央）以下八十二名（即応予備自衛官五十名が参加）が、課目「陣地防御（防御準備）（防御戦闘）」を、通信小隊長（二等陸尉 藤波孝之）以下二十二名（即応予備自衛官十六名が参加）が、課目「防御における通信組織の構成・維持・運営」を二夜三日の状況下で受閲した。小雨降りしきるなか状況は開始され、昼夜の寒暖の差が激しく高温多湿の中での行動となったが、第五中隊長は中隊長を核心とし、第一線主戦闘地域守備部隊として連隊の作戦に最大限寄与するべく中隊が最大限の偵察・火力・運用準備時間を最大限に活用、所要の偵察・火力・運用準備時間を最大限に活用した。



連隊構想示達



通信網の維持・運営をする通信小隊



敵戦車に対し射撃する小銃小隊（第5中隊）

設器材調整等を綿密に行うとともに堅固な陣地を構築し、防御戦闘においては組織的な火力を適時に發揮する等、強靱な防御戦闘を遂行した。一方、通信小隊は小隊長指揮の下、有線構成をはじめ野外通信システム（広帯域多目的無線機）を最大限活用し、通信網の構成・維持・運営を実施、状況の終始を通じ連隊の通信を確保する等、受閲部隊それぞれが与えられた任務を完遂した。



△連隊炊事要員集合訓練

第二次連隊野営訓練では、今年十二月に予定されている中部方面混成団重迫撃砲射撃競技会における「優勝」を目標とする重迫撃砲中隊の一〇ミリ迫撃砲の練成射撃をはじめ、連隊狙撃手練成訓練、炊事要員集合訓練、野営の訓練基盤を活用した普通科中隊（第一中隊及び第二中隊）の小隊検閲などを実施し、各種の練度向上を図った。



120mm迫撃砲射撃（重迫撃砲中隊）



第1中隊3小隊訓練検閲（防御戦闘）



第2中隊1小隊訓練検閲（防御準備）



連隊狙撃手練成訓練（目標発見・識別）

第四陸曹教育隊



第三十一代第四陸曹教育隊長

北村 厚 一等陸佐着任

● 統率方針

「二蓮托生」

● 要望事項

「責務完遂」「謙虚誠実」「か内安全」

● 出身地 三重県

● 生年月日 昭和三十八年八月二十日

● 職種 普通科

● 経歴

第三普通科連隊

富士学校普通科部

第三十五普通科連隊

富士学校普通科部

陸上幕僚監部教育訓練部教育課

第三十三普通科連隊

中部方面総監部人事招募集課

第三十五普通科連隊副連隊長

自衛隊佐賀地方協力本部副本部長

信太山駐屯地業務隊長

第十后方支援連隊副連隊長

第十師団司令部監察官

(名 奇)

(富 山)

(守 山)

(富 山)

(市ヶ谷)

(久 居)

(伊 丹)

(守 山)

(佐 賀)

(信 太 山)

(春 日 井)

(守 山)



団長による北村1佐の紹介



巡 閲

第四陸曹教育隊長
井川一佐離任

第三十代第四陸曹教育隊長井川三典一佐は、一年八ヶ月の勤務を全うされ、八月一日付をもって第二十七普通科連隊長兼ねて釧路駐屯地司令としてご栄転されました。

井川一佐は、着任以来「情熱・愛情」「徹底」「鍛錬」を要望され、隊を統率し、また、自らも実践されました。



団長による井川1佐の紹介



記念撮影

上半期各課程等教育・行事フォトピックアップ



陸曹候補生総合訓練 (共通)



対戦車誘導弾教習射撃



中級陸曹集合教育総合訓練



創隊64周年祝賀会食



定年退官パーティー (奥田3尉)



隊防災応急対処訓練

第一〇九教育大隊



第2次募集期
自衛官候補生課程教育入隊

大隊（大隊長 西川 二佐）は、七月より第2次募集期自衛官候補生六十名を受け入れ、第三一四共通教育中隊が教育を担当実施中である。入隊した新隊員たちは全員で声高らかに宣誓文を読み上げ自衛官候補生としての第一歩を踏み出した。

今年の夏は例年になく猛暑日が続く厳しい環境の中での教育訓練であるが、同期との絆を深めながら、日々遅く成長をしている。これからも大隊は、熱意と愛情を持って教育に臨んでいく所存である。



入隊式での宣誓



駐屯地内での10キロ行進訓練



武器授与式

予備自衛官、予備自衛官補
それぞれ召集訓練開始

大隊は、七月二十日から平成三十二年度予備自衛官召集訓練（計六回・延約二〇〇名参加予定）及び予備自衛官補召集教育訓練（計二十五回・延約一四〇〇名参加予定）をそれぞれ開始した。

訓練開始式においては大隊長より予備自衛官補旗を授与された隊員たちは、大学生等を中心とし、志高く自衛隊への関心も高い若者たちがこの大津駐屯地につどい、ひたすら訓練に励む姿は、誠に心強く感じられる。その気持ちを汲み、大隊は、熱意と愛情を持って教育に臨んでいく所存である。



予備自衛官補旗の授与



基本教練



訓練開始式

第一〇教育大隊



平成三十年度第二次募集期

自衛官候補生課程教育

大隊（大隊長 藤井二佐）は、七月三十日より自衛官候補生の教育を開始した。

八月四日に実施された入隊式では、全員で声高らかに宣誓した後一人ひとりが順番に自分の名前を呼称してその決意を式場内に響かせた。

八月の酷暑の中始めた教育であったが、暑さに負けず同期で切磋琢磨しこれを乗り切っている。

休日には石鎚山登山で団結の強化を図り、史跡研修として訪れた坂村真民記念館では道徳心の涵養を図った。

自衛官候補生は約三ヶ月の教育を修了した後、晴れて自衛官に任官し、十一月一日に後期部隊へと旅立つ。



【入隊式】



【歩哨訓練】



【体力検定】



【基本教練】



【着隊・受付】



【2.5km行進】



【石鎚山登山】



【武器分解・結合】



【武器授与式】



【戦闘訓練】



【史跡研修】



【200m射撃】



【ガス体験】

平成30年度予備自衛官補 招集教育訓練開始



【訓練開始式】

大隊は、平成三十年七月から平成三十年度予備自衛官補招集教育訓練を実施している。訓練開始式では、四十二名の隊員が予備自衛官を目指し決意を新たにされた。



【体力検定】



【基本教練】

第12期 一般陸曹補生課程教育開始



【着隊時集合写真】

九月二十八日、第十二期一般陸曹候補生十一名が松山駐屯地に着隊した。期待と不安に揺れる面持ちの隊員を第三三二共通教育中隊の隊員が温かく迎え、これから約三ヶ月の教育を共に実施していく。



【縫いつけ】



【着隊・受付】

一般陸曹候補生十一